

# 人のとなり

寺田 恵吾さん



「人のとなりに」とは…  
文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

大阪府出身で地域おこし協力隊として、2年の任期を経て薩摩川内市に定住した寺田恵吾さん。  
今回は、廃業間近だった観光農園を継いで奮闘するブルーベリー生産者の思いに寄り添います。

## 田舎に住みたい

もともと田舎への憧れがあった寺田さんは、地域おこし協力隊として、本市に越してきました。そして、「田舎の環境はやっぱりいいな」という思いと周りの人たちの優しさに触れて、任期満了後も本市への定住を決意します。

協力隊の任期も満了が近づいた頃、「農業がしたい」という思いを強くしていた寺田さんは、協力隊の活動で知り合った、市内で玩具店がらっぱ堂を営む神崎侯至さんから「ブルーベリーの観光農園をやってみないか」と誘われます。

それは、田海町で「ぶるべりちゃんの畑」を営んでいた、神崎さんの同級生の今村正則さんの農園でした。今村さんは重い病気を抱えていて、観光農園を続けることが難しくなっていたのです。

## 感じたシンパシー

寺田さんは、神崎さんの誘いを受け、ブルーベリーの観光農園を引き受けることを決意します。

「自分の実家が果物屋ということもあり、野菜ではなく、ブルーベリーというところにシンパシーを感じました。農業をや

りたいという自分の気持ちに、神崎さん、そして今村さんとの縁も感じました」

そして、今村さんは、観光農園を譲った後も、病気の体を押し立て、手押し車で足しげく農園に顔を出してくれました。

## 前途多難な観光農園

協力隊の任期満了後、観光農園業にとんとん拍子にスライドできたように思えた寺田さんですが、新型コロナウイルスの影響で、2年間、観光農園としての営業ができないという思わぬ困難に見舞われることに。

そのため、観光農園としてはなく、純粹にブルーベリーの栽培と販売の収入のみで生計を立てることを余儀なくされます。

「ブルーベリーの知識はありませんが、果物屋の息子としての基礎知識があったので、保存方法や輸送方法、例えばブルーベリーがどのような形で届くのか、冷蔵なのか冷凍なのか、そういうことは知っていました。でも、今村さんがやってきたことは少し違うところもあったので、最初は戦いでしたね(笑)」

## 思いを継いで

令和3年3月、今村正則さんは、病気が治ることなく、帰らぬ人になってしまいました。



ぶるべりちゃんの畑  
田海町1624-1(八幡地区)  
コミュニケーションセンター向かい  
090(3620)8974

## VOL.14 防災トピックス

このコーナーでは、防災に関する備えや避難時の注意など、日ごろから災害に備えるための情報をスポットで発信していきます。

## 災害から家族や自分を守るために 普段から防災行政無線(戸別受信機)や避難場所の確認をしておこう

これから台風や大雨に見舞われる出水期が近づいてきます。大雨や土砂災害などに関する気象情報により、避難指示などを発令する際は、昼間防災行政無線の確認や家族間での避難場所の確認をしておきましょう。



### 放送を聞き逃した!

防災行政無線の放送内容を聞き逃しても慌てないで。戸別受信機には、3回までの録音機能がありますので、再生ボタンを押すことで繰り返し聞き直すことができます。

### いつ避難指示が出されようとも

災害は、いつ起こるか分かりません。自宅が安全か(浸水・土砂崩れなど)の確認と自宅が危険な方は、日頃から家族間で、どこに避難するか(安全な親戚や知人宅、旅館やホテルなどの宿泊施設、市が指定する避難所)など、確認しておきましょう。



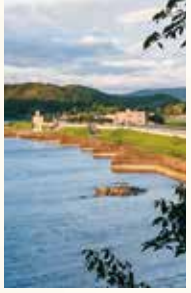
## 高江三千石火の地獄

高江地区は、昔、川内川の潮が流入する低水地で、「親がやろうとて行かれよか高江 高江三千石火の地獄」と歌われるほど稲作が困難な土地でした。そこで第19代藩主の島津光久は小野仙右衛門を奉行に任命し、延宝七年(1679年)、干拓工事に着手しました。

## 苦難の連続

### 不屈の「心」

このとき61歳だった仙右衛門は、高江の人々の苦しみを救うため、即諾します。工事には、隈之城・平佐・水引・樋脇・東郷からも集められ、数千人規模の作業となりました。工事は、人力で石を築く大変な作業な上、地盤も弱く、しばしば洪水に襲われ、堤防は跡形もなく崩れ去ります。しかし、仙右衛門は決して諦めず、工事開始から7年目の貞享3年



## 今も高い評価を得る のこぎり形

翌年、遂に延長約640mの堤防が完成します。最大の特徴はのこぎり状に並んだ7つの歯で、激しい水の勢いを抑える設計となっており、今も専門家から高い評価を得ています。



堤防の downstream 小野神社奥の磨崖「心」

(1686年)、岩壁に「心」の文字を深く刻み、強い決意で工事に臨みます。

## 深発見 歴史文化 遺産

## 第八回 高江を救った「長崎堤防」 小野仙右衛門 不屈の8年

今回は、高江地区を水害から救い、屈指の水田地帯へ生まれ変わらせた小野仙右衛門のお話をご紹介します。

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

こののこぎり形は現在も継承され、上流部の2カ所は当時の積み方が残されています。



これから雨や台風など水害の発生しやすい季節を迎えますが、こうした先人の実績を学び、防災への意識を新たにし、災害に備えましょう。

■文責・問合せ 社会教育課 文化財G(中央公民館内) (22)7251